

成長できる大学 = 福島大学でミライをつかめ!



福島大学
公式マスコットキャラクター
「めばえちゃん」

FUTURE

福島大学

Fukushima University

2020.05 発行

問題

下線部に当てはまる語句を選び、文章を完成してください。

2021 年度から国立大学入試が大きく変わります。

その背景にあるのが、少子高齢化に伴う人口 A 、

国際化や情報化の一層の B です。

こうした変化に対応し、新たな社会形成に貢献するため、
福島大学にも変化が求められています。

福島大学は、「解のない問題に C 」大学として、

「問題解決を基盤とした教育」を進めています。

入試においても、新たな改革を進めているところです。

A 1. 増加 2. 爆発 3. 減少

B 1. 進展 2. 混乱 3. 鈍化

C 1. 挑戦する 2. 困惑する 3. 執着する

国立大学の入試が変わる! その全貌とは?

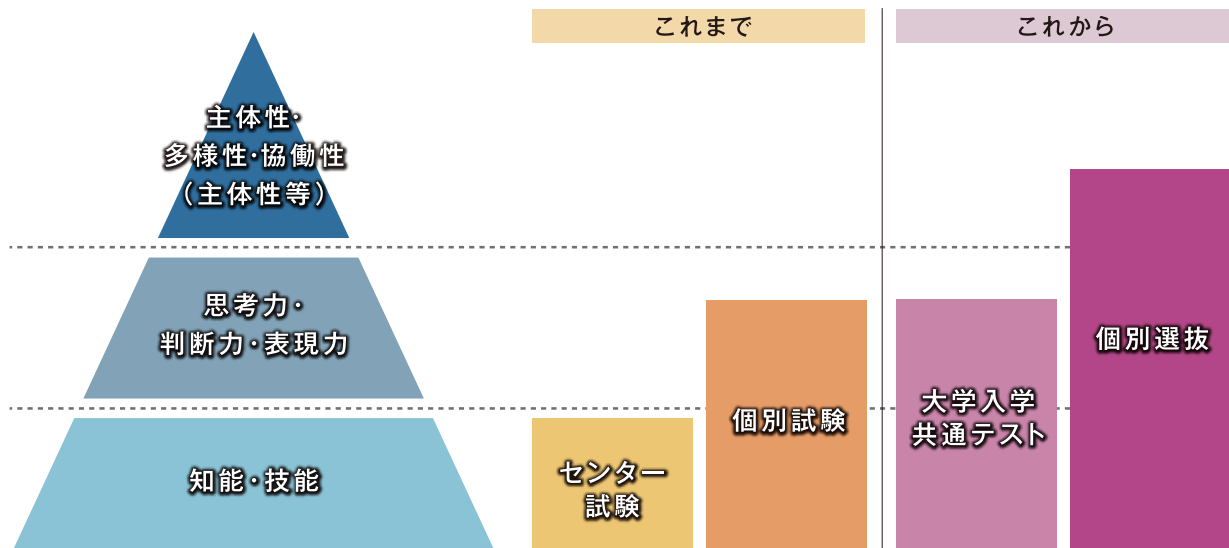
国立大学入試はどう変わる？

2021年度入試から大学入試が大きく変わります。変革のキーワードは「多様化」。

これまで大学ごとの差はあまりなかった「大学入試センター試験 + 個別試験」方式に代わり、

「大学入学共通テスト + 個別選抜」方式が新たに導入されます。

何がどう変わるのか？ そのポイントは「学力の3要素」にあります。



◎個別選抜で何をみるか？ そこに大学ごとの「個性」が！

そもそも「学力」とは何か？「何かを知っている、何かができる」という「知識・技能」の量と質だけで測ることができるのか？そうした問いに対し提示されたのが「学力の3要素」です。これからの時代には、何かを知っている、何かができるというだけでなく、自分で考え、それを発信していく力、そして多様な人々とともに知恵を出し合い問題を解決していく力や態度が必要。そのためには、大学入試のあり方も変わるべき。それが、今回の入試改革の大きな動機となっています。

これまでの大学入試では、「知識・技能」を重視しがちでした。それだけでなく、「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」もしっかり評価していこうというのが、今回の入試改革のポイントです。そして、「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」をどう評価するかという点に、それぞれの大学の「考え方」や「個性」が表現されているのです。

入試改革のキーワードは「多様化」。「主体性等」の評価に大学の個性が。

■「主体性等」をどんな方法で評価するのか？

福島大学	調査書
東北大学	調査書、志望理由書
宮城教育大学	志望理由書
秋田大学	面接（調査書）
茨城大学	チェックシート、調査書
宇都宮大学	調査書、ポートフォリオも可
新潟大学	面接（一部の学部）

※各大学ホームページ調べ。※各大学が公表している内容は予定であり、変更する可能性があります。正確な情報は各大学のホームページをご確認ください。

■共通テストで記述式問題がなくなったけれど…

大学入学共通テストの「国語」「数学」での記述式問題の導入が取りやめになりました。記述式問題は、学力の3要素のうち、「思考力・判断力・表現力」を問うのがそもそもの目的。国立大学では、二次試験の個別選抜の中で、この力を問うケースが増えるでしょう。ちなみに福島大学では、小論文がその中心となります。

■共通テストの「英語」は…

大学入学共通テストの「英語」では、英語資格・検定試験の活用は取りやめになりました。とはいえ、英語などの語学力が重要視されていることに変わりはありません。リーディングおよびリスニング試験への準備はしっかり進めておきましょう。

■特別選抜は…

「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」を重視した選考を行うため、特別選抜（推薦・総合型）の定員枠がどの国立大学でも3割へ拡大されます。

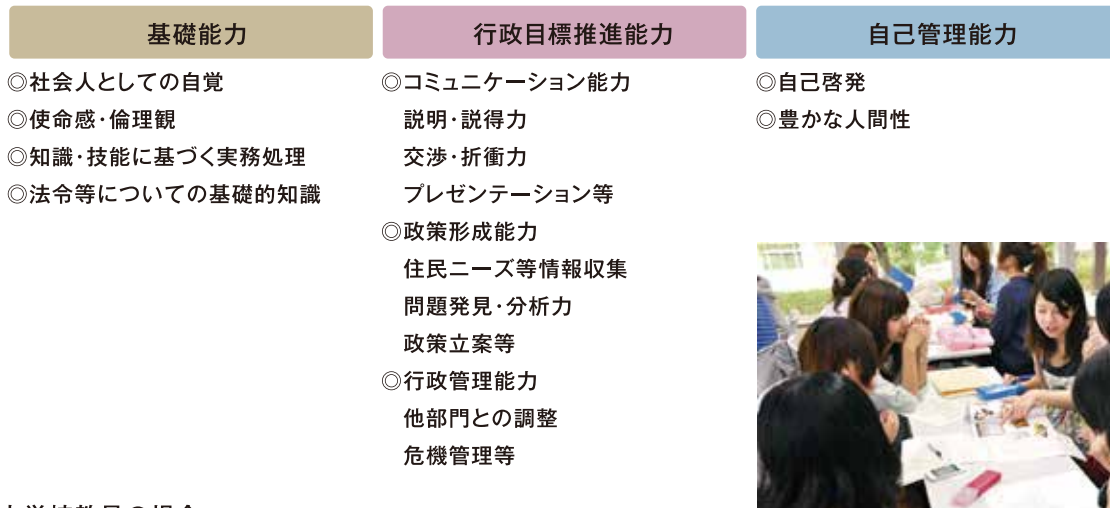
大学受験のしくみが変わるのはなぜ？

2025年には、団塊の世代の人口が約2,200万人を超え、国民の4人に1人が75歳以上になると言われています。超高齢社会の到来と人口減少が進む一方で、国際化や情報化はますます進展し、世の中のしくみや職業のあり方、求められる力も大きく変わっていくことでしょう。大学受験の改革の背景には、こうした社会の大きな変化があるのです。

社会環境の変化、求められる力の変化

■例えば、地方公務員の世界

社会の変化とともに、地方公務員に求められる能力も大きく変化します。



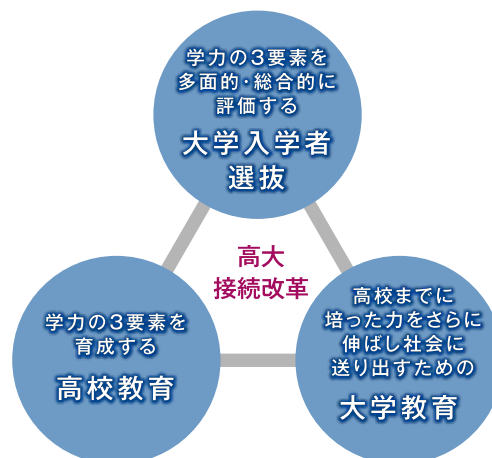
■例えば、中学校教員の場合

社会の変化とともに、子どもたちの変化もあります。



高大接続改革と新しい学び

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の学力3要素を身に付けるため、高校でも積極的に考える力や表現する力、問題を解決する力を目的とした教育活動が展開されています。そうした高校での取り組みを大学が引き継ぎ、それまでに培った力をさらに伸ばすこと。そのためには、大学の入口である大学入試もまた変わることが求められているのです。



つまり、新しい学びをはかるための入試制度が必要

高校まで培った考え抜く力や思考力、応用力などをはかるためには、新しい入試制度が必要なのです。

福島大学の高大接続改革、入試改革とは

POINT
1

福島大学は問題解決型教育への転換を図っています

■福島大学の教育目標(要約)

- 自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成
- 大震災・原発事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21世紀的課題」に果敢に挑戦する人材の育成
- 「問題基盤型学習」カリキュラムで知識、技術、スキルを養い、「解のない問い」に挑む態度を修得

■福島大学のアドミッション・ポリシー(AP)

1. 福島大学の教育目標を理解していること
2. 地域や社会の発展に貢献する志をもつこと
3. そのために、①選択した領域の専門知識、②問題を発見し探究する力、③広い教養と知的関心、④グローバルな視野、⑤主体的に多様な人々と協働する力、を自ら向上させようとする意欲があること
4. 福島大学での学士課程教育を受けるにふさわしい基礎的学力、思考力・表現力・コミュニケーション能力、現実の問題や学問への能動的姿勢を持っていること

POINT
3

主体性の評価についての基本的な考え方

1 すべての入試において「学力の3要素」を多面的・総合的に評価します。

2 一般選抜では学力試験の結果を重視します。

3 調査書を使ってアドミッション・ポリシーとの整合性を見ます。

※受験者の属性(性別、年齢、出身地など)や評定、評定平均値は評価の対象としません。

※客観的に評価できる項目に限定します。

4 受験者、高校、大学それぞれにとって、過度の負担にならない方法を採用します。



POINT
2

福島大学は小論文を重視しています

福島大学では、以前から二次試験において小論文を課す入試を実施してきました。教科の学力は大学入試センター試験ではかることができ、二次試験では教科の学力よりも、「思考力、応用力を問うべきだ」という本学の姿勢に基づくものです。この姿勢は新たな入試においても引き継がれ、一般選抜、総合型選抜および学校推薦型選抜の多くで小論文を課すこととしています。

本学の小論文の問題は、高校教員からも「良問」との評価
※2019高校ヒアリング結果より

◎入試問題のホームページ掲載について

受験生の利便性を考慮し、過去の入試問題をホームページに掲載しました。

掲載した入試問題のうち、第三者に著作権のある著作物を利用した入試問題については、著作者に対し「ホームページへ掲載することについてのみ許可を得ております。したがって、掲載した入試問題を「コピーをとり配布する」などの2次的利用は、著作権の侵害になりますので、ご注意ください。

2次に利用する場合は、あらためて著作者の許諾を得ていただくことになりますのでご注意ください。

なお、ホームページ掲載について、著作者の許可が得られなかった部分については、本学入試課窓口で閲覧可能です。

また、一般入試(前期日程、後期日程)の過去問題については、本学入試課窓口で閲覧いただくか、市販されているものをご利用ください。

POINT
4

生徒のみなさんの多様性を受け入れるために

◎総合型選抜を全学類で導入します。

※学類の求める人材に応じて、選考方法は異なります。

人間発達文化学類

芸術・表現コース	スポーツ健康科学コース
小論文、面接、実技検査	(第1次選抜)自己推薦書、実技実績調査書 (第2次選抜)小論文、面接、実技実績評価

行政政策学類

夜間主のみ
口頭試問

経済経営学類

(第1次選抜)書類審査、志望理由書、調査書、課題レポート
(第2次選抜)グループ討論、面接
(第3次選抜)大学入学共通テストの成績

共生システム理工学類

(第1次選抜)ポスター内容、出願書類
(第2次選抜)総合問題、ポスター口頭説明および質疑応答

食農学類

(第1次選抜)自己推薦書
(第2次選抜)課題論文、面接

福島大学の入試のポイント!

変わらないこと

基本的に福島大学の一般選抜の制度は大きく変わりません。それは受験生、高校、大学にとって、過度の負担にならないことを前提としているからです。二次試験は小論文重視(文系の学類)であり、共通テストの英語は「リーディング4：リスニング1」の配点です。

変わること

受験生の多様性を受け入れるために、全学類に総合型選抜を導入するとともに、二次試験では、調査書を活用した主体性評価を導入します。

■主な変更点

①入試区分の変更 ②募集人員の変更

現行		2021年度入試
一般入試	➔	一般選抜
AO入試	➔	総合型選抜
推薦入試	➔	学校推薦型選抜
私費外国人留学生入試	➔	私費外国人留学生選抜

②募集人員の変更

一般選抜の募集人員を減らし、総合型選抜、学校推薦型選抜を新たに設けます。

③大学入学共通テストの「英語」に関する変更

大学入学共通テストの「英語」は、読み、聞き比率を大学入試センター試験での比率に戻します。

読み:聞き=4:1

④調査書の提出が困難な場合の救済措置

調査書が出せない方への救済措置として、志望理由書による出願を受け付けます。

⑤ポートフォリオの不活用

「学力の3要素」の評価にポートフォリオは活用しません。

■入学定員および募集人員

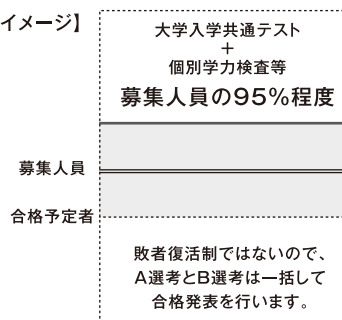
学群	学類	コース等	入学定員	募集人員					
				一般選抜		総合型選抜	学校推薦型選抜	私費外国人留学生選抜	
				前期日程	後期日程				
人文社会学群	人間発達文化学類	教育実践コース	260	15	A系 6	8	14	若干名	
		心理学・幼児教育コース		20					
		特別支援・生活科学コース		12					
		芸術・表現コース		12	B系 6				15
		人文科学コース		60					
		数理自然科学コース		15					
		スポーツ健康科学コース		20	12				6
	小計	154	12	20	74				
	行政政策学類	昼間	地域政策と法コース	185	108	35	20	42	若干名
			地域社会と文化コース						
夜間主		地域政策と法コース	20			20			
		地域社会と文化コース							
小計	205	108	35	20	42	若干名			
経済経営学類	経済学コース	220	114	40	11	A推薦 25 B推薦 25	5		
	経営学コース								
理工学群	共生システム理工学類	数理・情報科学コース	160	70	42	25	23	若干名	
		経営システムコース							
		物理・システム工学コース							
		物質科学コース							
		エネルギーコース							
		生物環境コース							
		地球環境コース							
		社会計画コース							
		心理・生理コース							
農学群	食農学類	食品科学コース	100	60	20	20		若干名	
		農業生産学コース							
		生産環境学コース							
		農業経営学コース							
合計			945	506	149	96	189	5	

■一般選抜では、ボーダーラインの受験生の合否判定に「主体性等」を適用

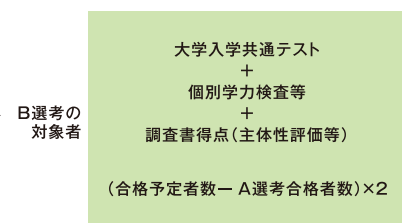
ボーダーラインにいる受験生が1点の差で合否が決まることのないように、調査書得点(主体性等評価)を加味した選考(B選考)を行い合格者を決定します。

※受験者が少数の入試については、全員の調査書の評価する場合があります。

【A選考のイメージ】



【B選考のイメージ】



福島大学の「強み」って何ですか？

POINT
1

少人数での実践型教育

大学院生 約300人	教職員 約500人
学類生 約4,200人 福島県出身 約45% 県外出身 約55%	

◎入学から卒業までゼミに所属

1年次からゼミに所属し、少人数での演習に取り組みます。スタートアップセミナー、問題探究セミナー、専門演習、卒業研究を通して、大学での学び方、問題解決能力、協働する力、コミュニケーション能力などを身に付けます。

◎フィールドワークへの挑戦

すべての学類でフィールドワークによる実践的な学びを重視しています。地域に足を運び、住民の声を聞き、自ら課題を発見するフィールドワーク。その学びの場は、海外にも広がっています。

POINT
2

地域に学び、地域に貢献する



◎地域実践特修プログラム

地域実践特修プログラムは、地域について実践的な力を養うために設定された科目群。中心的な科目として、講義形式の「**ふくしま未来学入門 I・II**」やフィールドワーク科目「**むらの大学**」などが設けられています。

◎グローバル特修プログラム

海外の交流協定校の留学生たちが福島県内を視察する際、本学の学生が留学生のサポーターとして同行。体験型被災地学習の中で意見交換や交流を行い、グローバル人材の育成の一助とします。

POINT
3

福島大学でしか学べないことがある



◎「ふくしま未来学」と「むらの大学」

本学は公立大学ではなく国立大学として、立地する福島県の課題にむき合って、福島県をフィールドに学生がリアルに課題に向き合い、地元の人とともに解決策を考えるプログラムを用意しています。学生自身が成長を実感できる学びの機会となっています。

◎福島で食と農の未来を学ぶ＝食農学類

農業が主要産業の一つである福島県は、東日本大震災以降、原発事故による風評被害などにより、食と農に深刻な打撃を受けました。2019年4月に新設した食農学類では、地域での実践型教育に取り組み、食農の地域リーダーを育成します。

POINT
4

教員と公務員、就職に強い大学

2018年度卒業生991名中(4学類合計)

公務員 **188名**
(国家公務員43名/地方公務員145名)

教員 **99名**

進学 **96名**

就職率 **96.7%**
(就職者812名/卒業生991名)

県別就職先では…

全国から学生が集まる本学では、Uターン就職の支援も強みです。

福島県 **40.6%**

東京都 **17.5%**
(関東全域31.6%)

※この冊子は、6月頃までに本学のホームページにPDF ファイルにて掲出する予定です。

発行